

# 鐵槌の音

泉鏡花

青空文庫



てゆまだくら 天末に闇し。 とうほうぐわりうざんいたよき 東方臥龍山の巔少しく白みて、 旭日一帯の紅を潮せり。 昧爽まいさう 氣清く、神澄みて、街衢縦横の地平線、皆眼眸の裡にあり。 然して國主が掌しやうち 中の民十萬、今はた何をなしつゝあるか。

これより旬日の前までは、前田加賀守治脩公、毎朝缺すことなく旭を禮拜らいはい なし給ふに、唯見る寂寞たる墓の下に、金城の蒼生皆眠りて、彌望、極顧、活くわつ 色なく、眼の下近き鍛冶屋にて、鐵槌一打の聲ありしのみ。

然るに家業出精の故を以て、これよりさき特に一個この鍛冶屋を賞し給ひしより、 味爽に於ける市街の現象日を追うて趣を變じ、今日此頃に到りては、鍛冶屋の丁て 々は謂ふも更なり、水汲上ぐる釣瓶の音、機を織る音、鐘の聲、神樂の響、騷然、雜ざ つぜん、業に聲ありて黙するは無く、職に音ありて聞えざるは無きに到れり。 剩へ野町、野の だでらまち、地黄煎口、或は鶴來往來より、野菜を擔荷ひて百姓の八百物市に赴む 者、前後疾走相望みて、氣競の懸聲勇ましく、御物見下を通ること、絡繹らくえき とし 織るが如し。

治脩公これを御覽じ、思はず莞爾と、打笑み給ふ。 時に炊烟數千流。 爾時公は

左右さいうを顧かへりみ、  
「見みよ我わが黽びんべん勉べんの民たみは他ひとよりも命いのち長ながし。」

明治三十年六月

# 青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※表題は底本では、「鐵槌《てつつる》の音《おと》」となっています。

※表題の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：米田進

2002年4月24日作成

2016年2月2日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 鐵槌の音

泉鏡花

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>